

301-2-1 【財務】計算 | 商品売買（記帳方法）

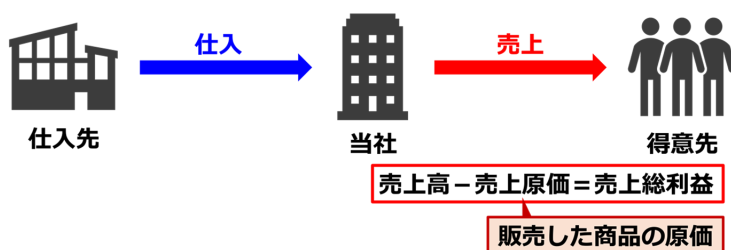
目次 Contents

- ・ 商品売買
 - ・ 売上原価
- ・ 商品売買の記帳方法
 - ・ 3分法（3分割法）
 - ・ 売上原価対立法
 - ・ 分記法
- ・ 今日のまとめ

商品売買

商品売買とは、物品を購入し、その物品に利益を付加して販売することを業として行う取引をいいます。このとき、物品を購入することを**仕入**といい、販売することを**売上**といいます。購入した物品のことを商品といいます。

また、商品の購入先を仕入先、商品の販売先を得意先といいます。



売上原価

売上高から売上原価を差し引いた金額が売上総利益です。

$$\text{売上高} - \text{売上原価} = \text{売上総利益}$$

売上原価とは、販売した商品の原価をいいます。

個々の取引の売上原価は商品有高帳などで把握しますが、一会計期間における売上原価は下記の計算式で求められます。

$$\text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品棚卸高} = \text{売上原価}$$

報告式の損益計算書においては、売上原価の内訳として上記の計算式と同様の情報が表示されます。

損益計算書（売上総利益まで）

I	売上高		XXX
II	売上原価		
	1. 期首商品棚卸高	XXX	
	2. 当期商品仕入高	XXX	
	合 計	XXX	
	3. 期末商品棚卸高	XXX	XXX
	売上総利益		XXX

例題 1

以下の資料に基づき、損益計算書（売上総利益まで）及び貸借対照表（一部）を作成しなさい。

1. 期首商品棚卸高は2,000千円であった。
2. 当期商品仕入高は30,000千円であった。
3. 当期の売上高は40,000千円であった。
4. 期末商品棚卸高は6,000千円であった。

解答 1

（以下、単位：千円）

1. 損益計算書（売上総利益まで）

1. 損益計算書（売上総利益まで）

損益計算書

I 売上高		40,000
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	2,000	
2. 当期商品仕入高	30,000	
合 計	32,000	
3. 期末商品棚卸高	6,000	26,000
売上総利益		14,000

2. 貸借対照表

貸借対照表

I 流動資産

商 品 6,000

商品売買の記帳方法

商品売買の記帳方法（仕訳の方法）には、商品の仕入や商品の売上などについてどのような勘定を設けて記録するかによって、いくつかの方法があります。ここでは、3分法（3分割法）、売上原価対立法、分記法を学習します。



3分法（3分割法）

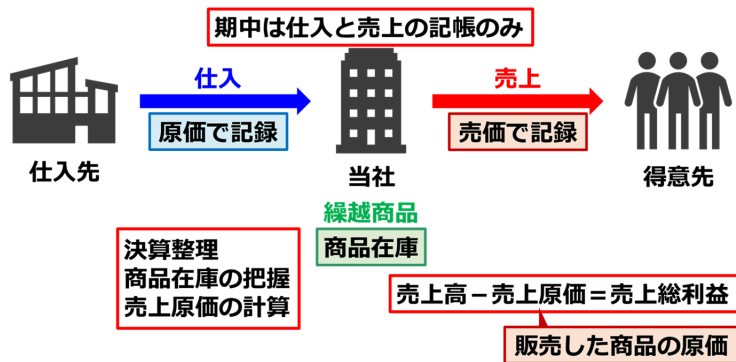
3分法（3分割法）とは、商品売買の取引を仕入勘定、売上勘定、繰越商品勘定の3つの勘定を用いて記録する方法です。

仕入 勘定（費用）：商品を仕入れた額（**原価**）を記録する勘定です。

売上 勘定（収益）：商品を売り上げた額（**売価**）を記録する勘定です。

繰越商品 勘定（資産）：仕入れた商品のうち、在庫として残った商品を記録する勘定です。

なお、繰越商品勘定は決算整理で仕訳等の記録がなされます。期中は金額の変動がないため、期中における繰越商品勘定は前期末の商品在庫、つまり当期首における商品在庫（**期首商品棚卸高**）を意味します。



期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	XXX	〇〇〇	XXX

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
〇〇〇	XXX	売上	XXX

決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	XXX	緑越商品	XXX

※期首商品棚卸高（緑越商品勘定の決算整理前残高）

借方科目	金額	貸方科目	金額
緑越商品	XXX	仕入	XXX

※期末商品棚卸高（商品有高帳などで把握します。）

まず、期首商品棚卸高を表す緑越商品勘定の決算整理前残高を仕入勘定に振り替えます。次に、期末商品棚卸高を仕入勘定から緑越商品勘定に振り替えて売上原価を算定します。これにより、仕入勘定において、**期首商品棚卸高 + 当期商品仕入高 - 期末商品棚卸高 = 売上原価**の計算が行われることになります。



補足 売上原価勘定で売上原価を計算する方法

決算整理において、**売上原価勘定を設けて売上原価を算定する方法**もあります。

この方法では、まず、期首商品棚卸高を表す繰越商品勘定の決算整理前残高を**売上原価勘定（費用）**に振り替えるとともに、当期商品仕入高を表す仕入勘定を売上原価勘定に振り替えます。次に、期末商品棚卸高を売上原価勘定から繰越商品勘定に振り替えて売上原価を算定します。これにより、売上原価勘定において、**期首商品棚卸高 + 当期商品仕入高 - 期末商品棚卸高 = 売上原価**の計算が行われることになります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上原価	XXX	繰越商品	XXX

※期首商品棚卸高（繰越商品勘定の決算整理前残高）

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上原価	XXX	仕入	XXX

※当期商品仕入高

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越商品	XXX	売上原価	XXX

※期末商品棚卸高（商品有高帳などで把握します。）

例題 2

以下の資料に基づき、期中取引仕訳および決算整理仕訳を示すとともに、損益計算書（売上総利益まで）及び貸借対照表（一部）を作成しなさい。

1. 期首商品棚卸高は2,000千円であった。
2. 当期商品仕入高は30,000千円であった。
3. 当期の売上高は40,000千円であった。
4. 期末商品棚卸高は6,000千円であった。
5. 商品売買はすべて掛で行っている。
6. 商品売買の記帳方法として、3分法を採用している。

解答 2

（以下、単位：千円）

1. 期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	30,000	買掛金	30,000

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	40,000	売上	40,000

2. 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	2,000	繰越商品	2,000

※期首商品棚卸高

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越商品	6,000	仕入	6,000

※期末商品棚卸高

3. 損益計算書（売上総利益まで）

損益計算書		
I 売上高		40,000
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	2,000	
2. 当期商品仕入高	30,000	
合 計	32,000	
3. 期末商品棚卸高	6,000	26,000
売上総利益		14,000

4. 貸借対照表

貸借対照表		
I 流動資産		
商 品	6,000	

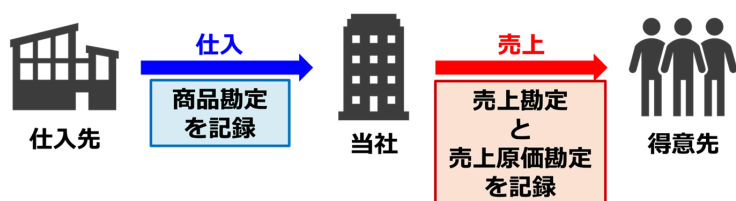
売上原価対立法

売上原価対立法は、商品の購入時は**商品**勘定（資産）で処理し、商品の販売時には、**売上**勘定（収益）で処理するとともに、販売した商品の原価（売上原価）を商品勘定から**売上原価**勘定（費用）に振り替える方法です。

商品 勘定（資産）：商品在庫を記録する勘定です。

売上原価 勘定（費用）：販売した商品の原価を記録する勘定です。

売上 勘定（収益）：商品を売り上げた額（**売価**）を記録する勘定です。



期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品	XXX	〇〇〇	XXX

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
〇〇〇	XXX	売上	XXX
売上原価	XXX	商品	XXX

決算整理仕訳

売上原価対立法によれば、商品勘定の残高はその時点の商品の帳簿棚卸高を表し、売上原価勘定は売上原価を表すことになります。期中の会計処理により期末在庫と売上原価が記帳されることから、3分法と異なり、**売上原価の計算のための決算整理を行う必要はありません。**

例題 3

以下の資料に基づき、期中取引仕訳および決算整理仕訳を示すとともに、損益計算書（売上総利益まで）及び貸借対照表（一部）を作成しなさい。

- 期首商品棚卸高は2,000千円であった。
- 当期商品仕入高は30,000千円であった。
- 当期の売上高は40,000千円（販売した商品の原価は26,000千円）であった。
- 期末商品棚卸高は6,000千円であった。
- 商品売買はすべて掛で行っている。
- 商品売買の記帳方法として、売上原価対立法を採用している。

解答 3

（以下、単位：千円）

- 期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品	30,000	買掛金	30,000

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	40,000	売上	40,000
売上原価	26,000	商品	26,000

2. 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕訳なし			

3. 損益計算書（売上総利益まで）

損益計算書

I 売上高		40,000
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	2,000	
2. 当期商品仕入高	30,000	
合 計	32,000	
3. 期末商品棚卸高	6,000	26,000
売上総利益		14,000

4. 貸借対照表

貸借対照表

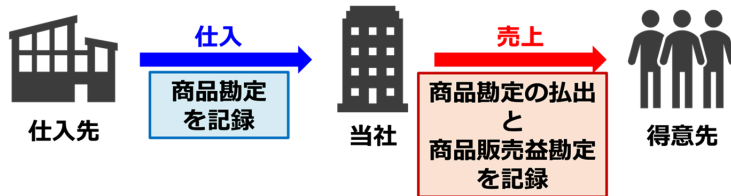
I 流動資産	
商 品	6,000

分記法

分記法は、商品の購入時は**商品**勘定（資産）で処理し、商品の販売時には、販売した商品の原価（売上原価）を商品勘定から減額するとともに、販売した商品の売価と原価との差額を**商品販売益**勘定（収益）に振り替える方法です。

商品 勘定（資産）：商品在庫を記録する勘定です。

商品販売益 勘定（収益）：販売した商品の売価と原価との差額（**売上総利益**）を記録する勘定です。



期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品	XXX	〇〇〇	XXX

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
〇〇〇	XXX	商品	XXX
		商品販売益	XXX

決算整理仕訳

分記法によれば、商品勘定の残高はその時点の商品の帳簿棚卸高を表し、商品販売益勘定は売上総利益を表すことになります。期中の会計処理により期末在庫と売上総利益が記帳されることから、3分法と異なり、**売上原価の計算のための決算整理を行う必要はありません**。

例題 4

以下の資料に基づき、期中取引仕訳および決算整理仕訳を示すとともに、損益計算書（売上総利益まで）及び貸借対照表（一部）を作成しなさい。

1. 期首商品棚卸高は2,000千円であった。
2. 当期商品仕入高は30,000千円であった。
3. 当期の売上高は40,000千円（販売した商品の原価は26,000千円）であった。
4. 期末商品棚卸高は6,000千円であった。
5. 商品売買はすべて掛で行っている。
6. 商品売買の記帳方法として、分記法を採用している。

解答 4

（以下、単位：千円）

1. 期中取引仕訳

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品	30,000	買掛金	30,000

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	40,000	商品	26,000
		商品販売益	14,000

2. 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕訳なし			

3. 損益計算書（売上総利益まで）

損益計算書

I 売上高		40,000
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	2,000	
2. 当期商品仕入高	30,000	
合 計	32,000	
3. 期末商品棚卸高	6,000	26,000
売上総利益		14,000

4. 貸借対照表

貸借対照表

I 流動資産	
商 品	6,000



学習のポイント

記帳方法（仕訳の方法）が異なっても、取引や会計方針が同じであれば、最終的に作成される財務諸表は同じものとなることを確認してください。

今日のまとめ

●商品売買

売上高から売上原価を差し引いた金額が売上総利益です。

$$\text{売上高} - \text{売上原価} = \text{売上総利益}$$

個々の取引の売上原価は商品有高帳などで把握しますが、一会計期間における売上原価は下記の計算式で求められます。

$$\text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品棚卸高} = \text{売上原価}$$

損益計算書（売上総利益まで）

I 売上高		XXX	
II 売上原価			
1. 期首商品棚卸高	XXX		
2. 当期商品仕入高	XXX		
合 計	XXX		
3. 期末商品棚卸高	XXX	XXX	
売上総利益		XXX	

●商品売買の記帳方法

3 分法

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	XXX	〇〇〇	XXX

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
〇〇〇	XXX	売上	XXX

- 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	XXX	繰越商品	XXX

※期首商品棚卸高（繰越商品勘定の決算整理前残高）

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越商品	XXX	仕入	XXX

※期末商品棚卸高（商品有高帳などで把握します。）

売上原価対立法

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品	XXX	〇〇〇	XXX

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
〇〇〇	XXX	売上	XXX
売上原価	XXX	商品	XXX

- 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕訳なし			

分記法

- 商品仕入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品	XXX	〇〇〇	XXX

- 商品売上時

借方科目	金額	貸方科目	金額
〇〇〇	XXX	商品	XXX
		商品販売益	XXX

- 決算整理仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕訳なし			

Copyright(c) KIYO Learning Co.,Ltd. All Rights Reserved.